

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	北原 和明
所属機関名	教育学部 初等教育学科
職位	准教授
在籍年	4 年

教育の責任

本学では、主に小学校における体育科教育の指導を担当している。また、小学校教諭としての授業実践、学級経営の経験を元に教育現場における具体的な指導力を育成する責任を担っている。特に授業実践においては、岡山大学教育学部附属小学校で培った研究的実践の知見を、将来教員を目指す学生らに伝え、探究的に授業づくりを行っていく力を身に付けさせたい。また、特別支援学校教頭として学校経営に関わった経験を元に、教育現場が求める教師像を学生に伝えるだけでなく、教育学部の学部運営の改善にも寄与していきたいと考えている。

教育の理念

体育科指導方法についての知見を深めるだけでなく、知的・情緒障害部門における特別支援教育指導方法と一般教育指導方法の関連について考えを深めたいと考えている。

日本の将来を担う人材を育成する教員には、高い倫理観と責任感が求められる。しかし、現場ではその責任感の強さから、自分が施されてきた教育をなぞる傾向がある。このような教育現場の保守的傾向は、日本型教育の負の側面を改善することへの抵抗感に繋がり、結果、教育現場の所謂ブラック化が社会的な問題になっている。また、教育の働き方改革の曲解によって、今後の若手教員が、教育者であることへの喜びと誇りを持ち続けていけるかどうかについても危惧されるところである。

上記のような、子供や教育現場が抱える様々な問題に果敢に挑む教員を養成することが私の教育理念であり、その教育理念を達成するための具体的な3項目を以下に掲げる。

- 1) 学びの継続・深化・広がり
- 2) 学びを楽しむ姿勢
- 3) 実践知と形式知の往還

教育の方法・方針

1) フィールドワークの充実

現場における実践知は常に更新されなくてはならない。そこで、現役の実践者との共同研究を通して現場での実践知を更新していきたい。また、現場に赴く際には可能な限り学生を同行させ、現場の教員や子ども達から実践知を得ていくことのイメージを共感的に捉えさせたい。

2) 実感を伴った内容理解

体育科の運動領域には主たる教材としての教科書がない。小学校学習指導要領解説体育編には、内容の取扱い・内容の例示が示されているが、教師は、その趣旨を十分に咀嚼した上で、教材化しなくてはならない。そこで、座学としての形式的な理解と実技を伴った実感的理解の往還を大切にしたい。

以上の2点を大きな柱とし、学生には児童の意識を大切にして授業を作ることの難しさや

りがいを感じ取らせていきたい。

教育の成果

主として担当する授業の授業評価結果について報告する。総合評価では、シラバスの内容の達成度において、96%が「できた (62%)」・「だいたいできた (34%)」と回答している。授業の満足度においては99%が「満足 (83%)」・「ほぼ満足 (16%)」と回答している。

自由記述では、「実技では実際に運動しながら内容について学ぶことができた。そのため、考えやすかった。」「指導要領に書かれていることを参考にするだけでは体育の授業を行うことは非常に困難であると感じました。事前の授業・教材分析をしっかりと行うことや取り扱う内容の意味を教師自身が理解することが重要であると考えました。」「流れや児童が求めていること、教師がなにを教えたいのか、など様々な視点から授業構成を考え、それを実行しました。そして、授業研究会にて、自分が見えなかった部分、それは良さや改善点も含めて指摘して頂き、力になりました。」といった感想を得た。

教育の方法・方針に沿った十分な成果が、量的・質的の両面から得られたと考える。

今後の目標

今後も新たな人脈を開拓し、協働的に教育活動を行っていきたい。その上では、これから私が育成していく、将来の教育を担う学生達が力強いパートナーになることを期待している。そこで、以下の通り二つの長期目標とそれに伴う短期目標を設定した。

【長期目標1】社会のニーズに自分の関心を引き寄せた研究テーマを設定し、学生の心を動かす魅力ある授業を実施する。

【短期目標1】 これまでに得た現場経験を整理・整頓し、新たな授業実践から情報を収集していく。

【長期目標2】 小学校実務家教員の特性（アクティブラーニングに常に取り組んできた）を大学教育に活かし、大学教育の質的改善に寄与する。

【短期目標2】 謙虚さを忘れず、各教員の授業を可能な限り参観し、良好な人間関係を築く。

根拠資料

- ・ 授業レポート
- ・ 授業評価結果